名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report

例会場　名古屋クレストンホテル　TEL　052-264-8000
例会日時　木曜日　12:30
クラブ会報広報委員長　立石ゆかり
HP　http://rc.nagoya-seinan.org/

2022-23年度RIテーマ
会長 シェカール・メータ
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするため

承 認　1995.3.28
会 長　亀井 克典
幹 事　松尾雄二郎
事務局　名古屋市中区栄 3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007 号
TEL　052-263-1324
FAX　052-263-0730
Email　seinan1@fancy.ocn.ne.jp

亀井克典会長 年度目標　：ポストコロナの時代に向けて、新たな親睦、交流、奉仕の活動をはじめよう

第1179回 例会　No16.　令和４年１月27日　(木)	
■ﾛｰﾀﾘｰｿﾝｸﾞ	「それでこそロータリー」
■出席報告	会員44 名中 21 名出席
■出席率	52.5%　出席計算人数４０名
■ゲスト	がバナー　　沓名俊裕　様
	地区幹事　　細井英治　様
	地区事務長　本間育子　様
■合同例会	名古屋みなとRC 会員 18 名

会長挨拶　　亀井克典

本日は沓名ガバナー、細井幹事、本間育子様、本当にありがとうございます。オミクロン株ですが、私は医療職で医療現場に立っているのですが、確かに感染力は全然違います。

今日も対面開催と言うことでいろいろ躊躇もあったのですが、スクール形式で十分なスペースを取り、ガバナーをお迎えできると言うことで、開催に至りました。ご協力ご理解をお願いしたいと思います。

今年度ガバナーが定められた地区方針は、「チェンジロータリー新時代の成長にコロナゼロ　カーボンゼロ支援」と言うことです。今、世界は頃中で大変苦しんでいます。産業革命以降のCO2 の排出増加が特にこの数十年非常に大きくなって、毎年のように山火事だとか洪水だとか。暴風だとかいろんな自然災害が起きていると言う状況になっています。こういう時代にこそ、私たちの行動様式を見直して、ピンチをチャンスに変えて新しい時代を構築する先駆けにロータリアンはなるべきだというメッセージではないかと私は受け止めております。

具体的にどうしたらいいのかと言うのはなかなか、先程の懇談会でも名案がないと言うところがあって、これから考えて行かなければいけないと言う事ですが、ロータリーの１月号に掲載された、シェカール・メータRI 会長のメッセージの中で、ちょっと目が止まったのは、インド西部の都市プネーと言う所での取り組みが紹介されておりました。

それは女性に低価格で再利用可能な生理用ナプキンが提供されるプロジェクトがされていて、インドでは年間多大な数の生理用品が使われているそうですが、ほとんど埋立地にそのまま埋め立てられていて、それが環境破壊の原因になっていると言うことで、再生可能な生理用ナプキンの生産をすることで地域の雇用が創出されて、なおかつ環境破壊が防がれて結果的にCO2 の排出の削減につながる、と言う試みが行われていると言う紹介がありました。

このような世界各地での試みを参考にしながら、具体的に私たちに何ができるのかと言うことを当クラブでも考えてまいりたいと思っております。本日この後、沓名ガバナーから貴重なお話をいただきますので、その話を拝聴して今後私たちロータリアンの活動の道標とさせていただければ幸いだと思っております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

ニコBOX

沓名俊裕ガバナー、細井英治地区幹事、本間育子地区事務長
公式訪問に参りました。

名古屋みなとロータリークラブ会長　栢森雅勝さん
本日は名古屋丸の内ロータリークラブの皆様にはお世話になります。ありがとうございます。

●本日はガバナー公式訪問です。ガバナー、地区幹事、地区事務長の皆様ようこそお越しくださいました。会員一同心より歓迎申し上げます
名古屋みなとロータリークラブのみなさま、本日はよろしくお願いします。
松尾幹事、川原、小野、後藤、横田、髙橋、成田、堀江亮介、岩田、立石、水野、黒田、田島、武山、加藤、小原、高山、今村、恵利（敬称略）

本日合計 58,000 円

ガバナー講話

第 2760 地区ガバナー　沓名俊裕

今日ホストを務めていただきますが名古屋丸の内ロータリークラブの亀井会長大変ありがとうございます。そしてみなとロータリークラブの柘森 雅勝会長におかれましても、本当に今日はありがとうございました。

昨年はこのコロナが出た時はオンラインだとか zoom とか、ハイブリット形式、そういった形が多かったわけですが実際にやってみますと、なかなかオンラインでは、物事は伝わっていくような感じなんですけれども、リアルにはなかなか到底及ばないと実感できたわけでありますので、こういった縮小傾向のスクール形式をとりながら、安全対策十分な対応をしていただいているこの形で結構かと判断しております。どうもありがとうございます。

それでは RI の会長のテーマご紹介からさせていただきたいと思います。

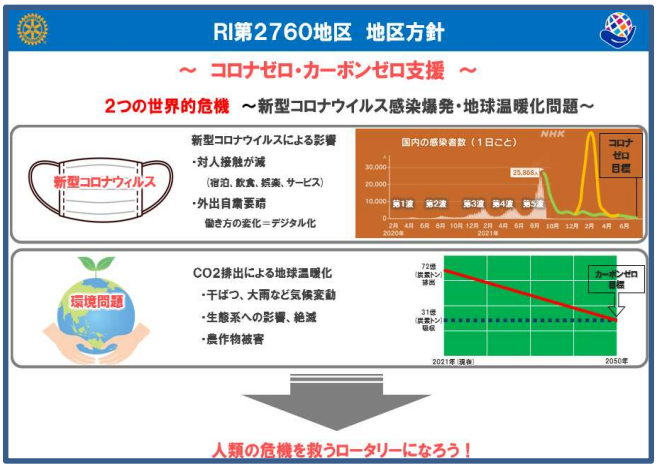
今年の RI 会長シェカール・メータ会長はインド西ベンガル州の出身でございます。

因みに 1 月 20 日に次年度 2022-23 年度の RI 会長のテーマの発表がなされました。「大きな夢を叶えたロータリーを想像している」と言う日本語訳になりますが、ジェニファー・ローンズ会長でございます。

今年度、私はこういった RI 会長のもと地区の方針を「チェンジ ロータリー新時代の成長に！コロナゼロ　カーボンゼロ支援」というのを掲げさせていただきました。そして人類の危機を救うロータリーになろうというテーマも、掲げさせていただきました。

今この２つの世界的危機。新型コロナ感染爆発。そして地球温暖化問題。この二つの大きな危機に向かってロータリーとして何かできるということを意識づけしたいと感じた次第です。新型コロナウィルスのこのようなグラフも載っておりますが第５波で２万５千人位そして今現在７万人を越したという感染爆発が起きたと言うことですが、オミクロン株が出なければ、６月をめどにコロナ実質０と言う所まで行ったと予測したのですが、しかしながらこの１月からオミクロン株が急激に爆発しました。しかし、急激に上がって山があれば感染防止対策等をやり、必ずや落ちてくる。このコロナ、今年度６月をもってウィズコロナと言えるような時が来て欲しいと思っている次第でございます。

そして環境問題については非常に長い年月がかかっておりますが、国が出している２０５０年という大きな目標、ここでもって、カーボンゼロ、いわゆるカーボンニュートラルというところに持っていきたい。ただいま７２億炭素トンを排出していて、これが３１億炭素トンになると植林などが吸収してくれている。残り４１億炭素トンを減らさなければない。これは国でも一生懸命手をうとうとやっていますが、国だけの方策でもこれが実現できるわけではない。やはり個人、企業全員の参加でもって、こういう数字ができるのではないかと思っています。しかしながらあるデータでは、２０３０年、このままの状態であれば、CO_2は１６%増というデータも出ておりますので、それぞれの事業のトップであられる皆さん方が、CO_2の排出を止めるんだという意識を持つことによって、その大きなきっかけとなって右肩下がりのカーボンニュートラルというところに持っていけるのではないかと思っています。



この２７６０地区は、愛知県のみですので、ロータリー８４クラブ４７００名の会員みな、ひとつになることができると考えております。その一つになるために、今日もみなさんに着用していただいているカーボンゼロバッチですが、常に着用して頂きまして「そのバッチはなんですか」と問われたときからこの説明が始まると。SDGs を今では知らない人は見えないわけですが、この SDGs が浸透したのも１７色のバッチから始まったように思います。

そのような意味で愛知県一つ、ここから日本に世界にこの意識を発信できる位の、それくらいになると言う思いを持って作らせていただきました。

行動方針の方でまず掲げたのは、クラブの発展なくしてロータリーの発展なし。

やはり８４クラブの皆さん方がより元気になるために、地域に貢献度の高いロータリーになってもらうために、２７６０地区としてみなさんのバックアップをしていきたいと考えているわけであります。そのためには８４クラブの皆さん方と、そして地区が一丸となって行動を起こすことにより、内外に存在感を示していくことができるであろうと思っております。

私の所では、ガバナー補佐８人、地区の委員会２６委員会ございまして、今日もそのうちの、寺本危機管理委員長、猪子グローバル奨学生平和フェロー委員長がおります。こういった意味で委員長、ガバナー事務局の皆さんとともに８４クラブの皆さん方をバックアップして、より元気になっていただこうと言う気持ちでございます。１９０５年にロータリークラブが発足しまして１９２０年東京ロータリークラブが初めて日本でできたわけでございます。ロータリーと言うのは大変なステータスがある親睦団体で１業種１社。職業を通じて社会奉仕、そしてまたアイサーブと言う言葉もあったわけですが、今はどちらかと言うと親睦中心のロータリーに変わってきている。もっともっとロータリーと言うのはプラスしていく必要があるだろうと。それは職業人としてメリットあるクラブ作り。新しい入会者の人たちは「ロータリーに入ってください」というと、「ロータリーのメリットは何があるのですか」と言うふうな返事が返ってくる。昔はロータリーに入ることだけでステータス感がありました。十分な価値があったにもかかわらず、なかなかそういったところが認識できていない。そうなりますと改めてメリットあるクラブと魅力あるクラブと言っても過言ではない、そして入会する人はある意味職業人と言う人でありますので、自分の所の職業を通じて、どういう風にしてロータリーが私に対してプラスになるのか、どういう魅力があるのかというところを発信しないと理解が難しいのかなあと考えた次第でございます。昔はロータリークラブですということを言わない、それがやはりある意味魅力でもあった。しかしながら今では、ロータリーの存在を堂々とPRする時代になってしまった。発信力というものをもっと持つ時代になった。そのため、

イメージ向上委員会、マスコミ等をつかって「ロータリーは、こんな感じで地域のために活動しているんです」とPRしています。そして、内側に向けての親睦から、外向けの社会奉仕をもっともっと発信していく時代になったのかもしれません。

そして今までのやり方考え方を固定的に考えるのではなく、多様性を考える時代となった。

そして、今までの組織を変えても、組織の作り方が同じであると、結果的には同じになってしまいますので、ある意味、強化するべきところは人数を増やす、社会奉仕に力を入れようとすれば社会奉仕活動のところに会員の人たちを増やす、会員増強を図るのでしたら会員増強のところを増やす。それなりに増やせば、それなりの効果が出てくると思います。

あるクラブで、大変厳しい８月９月の時に６人の新会員を入会させました、という連絡がありまして、そのクラブはどうして集まるのかと聞いたところ、私のところは会員増強メンバーに全会員をメンバーとして配置していますと。だから情報をみなさんが提出してくれるようになっていますということを聞きました。そしてまた、１年間のロータリークラブ単年度制の制度ですが、ある意味、３年５年１０年と長期的に考えることも大事かなと思います。そういったことを考える戦略委員会の設置も、今後必要ではないでしょうか。より奉仕できるロータリークラブに変わっていくことが必要と思います。「最も奉仕するもの、最も多く報われる」でございます。

２番目にチェンジロータリー。

ダーウィンの進化論による、最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるものでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できるものである。

私は、今この新型コロナウィルスで本当に大変な時期ではございますが、こういった時だからこそチェンジできる時ではないかと思います。ロータリーは四つのテスト、親睦、職業奉仕を基本として、時代の流れとともに、戦後からオイルショックからバブル崩壊いろんな出来事があって、川の流れのように流れてきている。そして常に新しいロータリーに、新しい時代に流れているわけでございまして、その流れていく先新時代への成長に向かって流れて行ってほしいと考えます。

３番目に会員の基盤を広げよう。

目標は５千名であります。１クラブ3.2人の人数になるわけですが、このために１人が１人以上の人に声をかけていただきたい。やはり女性会員の比率も6%から8%と考えております。若い世代の入会促進も大切であります。そして退会を防ぐ為に、３年未満の新会員の方に、やはり声かけが必要と思います。心が開いてくる、そして楽しいロータリーに変わっていくだろ

うと思います。

４番目にロータリー奉仕デー。

「コロナゼロ　カーボンゼロ支援」で統一しております。ワールドフードふれあいフェスタ（WFF）は４月 23、 24 日エンゼル広場開催を決定しております。テーマ「ゼロミッション；　コロナゼロ　カーボンゼロ　ポリオゼロ」と言う形で、ふれあいフェスタを開催させていただきたいと思います。WFF の事業の中で、カーボンゼロ植樹と言うのも計画させていただきました。これにつきましては、名古屋市内の 26 クラブの皆さんにおかれましては、平和公園に記念植樹をやっていただけると言うことで本当に楽しみにしております。

ロータリー奉仕デーは、シェカール・メータさんが全世界でやってほしいと言っておられますので、これが世界でロータリーの名前が出てくる一つのきっかけになればとも思いますし、今後社会奉仕事業と言うのもますます評価してもらう、その評価に伴って会員増強につながればとも思っております。

そして欠かせないのがファミリーの皆さんでございます。

やはりロータリーファミリーの皆さんとなると、大変若い人たちが大勢お見えになるわけでございます。この若い人たちとの連携と言うのも、ロータリーが今からもっともっと活躍できるきっかけになればとも考えます。

RI第2760地区　行動方針

ロータリーファミリーとの連携を強化しよう

若い力でロータリーの活性化

・グローバル補助金奨学生		2名	留学先：アメリカ・フランス
・インターアクトクラブ 新クラブ：名古屋経済大学市邨高等学校インターアクトクラブ	20クラブ	654名	
・ローターアクトクラブ 新クラブ：桜花学園大学・名古屋短期大学ローターアクトクラブ 名古屋インターナショナルローターアクトクラブ	11クラブ	157名	地区ローターアクト代表 山田弘樹（名古屋熱田RAC）
・青少年交換学生（派遣候補生）		11名	次年度派遣のため研修中
・米山奨学生		55名	中国56%・モンゴル11% 韓国・ベトナム他
・ロータリー地域社会共同隊（RCC）	16クラブ	1，423名	
	小計	2，302名	
・RYLA学友会		16名	
・青少年交換学友会		455名	青少年交換プログラム経験した帰国学生
・米山学友会		253名	愛知県在住
	小計	724名	
	合計	3，026名	

インターアクトクラブでは、名古屋経済大学市邨高等学校のインターアクトクラブが今年認証式を執り行いました。そしてローターアクトクラブの方では、桜花学園大学名古屋短期大学ローターアクトクラブ、名古屋インターナショナルローターアクトクラブの２クラブが、今年認証式を執り行うことができました。総勢３千名位の人数になりますので、この人たちと共にいろんな面で青少年の育成から、そして地域の活躍に貢献できる人たちばかりでございますので、ぜひ前向きに取り組んでいただきたいなと思います。

今日こうして名古屋みなとロータリークラブさん、名古屋丸の内ロータリークラブさんの合同例会に参加させていただきまして、本当にありがとうございました。そして両クラブのますますのご発展、会員の皆様方のご健勝発展の祈念を申し上げまして、ガバナーとしての卓話を終了させていただきます。

ガバナー会長幹事懇談会

名古屋クレストンホテル９Ｆ 『デイライト』１１：３０～

出席者　　沓名俊裕ガバナー、細井英治地区幹事

本間育子地区事務長

名古屋みなとＲＣ会長　栢森雅勝・幹事　岡田雅

名古屋丸の内ＲＣ会長　亀井克典・幹事　松尾雄二郎

２０２１－２２年度 会長幹事懇談会次第

１.今年度会長方針に沿った クラブ活動の具体的な 内容について

２。奉仕活動 「ロータリー奉仕デー」に於けるクラブ活動の内容 について

３．会員増強について クラブ としての目標数値と具体的な進め方について

４．ガバナー方針の【コロナゼロ カーボンゼロ】についてのクラブとしての 取り組みについて

閉会挨拶

名古屋みなとロータリー会長　栢森雅勝さんに　閉会挨拶を頂きました。ありがとうございます。

例会場の様子